

## まえがき

「人間とは何か？」と尋ねられたら、みなさんは何と答えるでしょうか？ 非常に難しい質問だと思います。筆者が、この「人間とは何か」という問題に対して、一生をかけて取り組もうと思ったのが、18歳の頃でした。それから幾つもの年月が過ぎましたが、いまだにこの問題に対する答えが見つからないだけでなく、ますますわからなくなってきました。心理学という学問は、この「人間とは何か」という問題に対するひとつの挑戦であり、人間の行動を科学的に分析することによって、「心」というものにアプローチしていく手法を用いて、飛躍的な発展を遂げてきました。しかしながら、心理学を勉強したからといって、人間のすべてを理解できるわけではありません。ただ確実に言えることは、心理学が「自分自身を理解する」と「他者を理解する」ために大きな役割を果たすということです。

将来、医療福祉の分野にかかわろうと思う人も含め、他の分野にかかわるすべての人に言えることですが、人間は決して一人で生きているわけではなく、他者を中心とした社会の中で生きていかざるをえないのです。いわゆる「ヒト」と「人間」が異なる点は、人間が人の間（社会）に存在している点にあるのではないかと思います。その社会の中における人間の行動や考えなどを理解し、社会に適応して生きていくために、本書が役に立てば幸いです。

筆者らは、長年にわたって、大学で心理学を教えてきました。多くの人がそうであるように、筆者にとって、心理学という学問

は義務教育や高等学校で教わる機会はなく、大学に入学して初めて心理学を学びました。その時にまず感じたのは、「授業で使用する教科書が難しい」ということでした。その理由として、もちろん筆者の知識不足もありますが、教科書の文章が難解で、専門用語が数多く出てくることが挙げられます。しかし、心理学の授業で聴く心理学者の話は面白かったのです。このことは、筆者が大学教員になって初めて理解したのですが、授業で講義をする面白い心理学の話にマッチングした、わかりやすい心理学の教科書が少ないという現実がありました。したがって、筆者は、心理学の授業において指定する教科書を、毎年変更するという試行錯誤を繰り返しておりました。その結果、「自作のプリント」を配布することが、筆者にとって最も授業しやすいということになりました。しかしながら、筆者らが、長年にわたって蓄積してきたノウハウを、所属している大学だけではなく、多くの大学でも使用していただけたら社会貢献につながるのではないかと考えたことが、本書を執筆することになった契機です。また、筆者らは、互いに入念な打ち合わせをして、目の前に受講生が心理学の授業を聴いていると想像しながら、執筆を進めました。したがって、受講生にとってわかりやすい教科書となるだけではなく、教員にとっても使用しやすい教科書となっていれば幸いです。

本書では、「社会心理学」「発達心理学」「臨床心理学」について執筆しましたが、心理学の分野はそれだけではありません。今後、

たとえば「医療心理学」「教育心理学」「認知心理学」「感情心理学」「犯罪心理学」など、幅広い心理学のテーマを扱ってこそ「心理学概論」といえるのではないかと思います。

筆者ら心理学者を育てるのは教員だけではありません。むしろ、筆者の場合は、学生から学ぶことのほうが多かったです。一方的に授業を聴き、本を読んだだけではわからないようなことを、学生のみなさんから教わりました。自分が教える立場に立った時に初めて知ったことが数多くあります。このような意味で、筆者を本当の心理学者にしてくれた学生のみなさんに深い感謝の意を表したいと思います。

最後に、本書を執筆するにあたり、ご指導をいただいた共立出版株式会社の寿日出男様、中川暢子様我心から感謝します。

2017年12月

高橋直樹